■施策・実施主体等のまとめ

施策		地域公共交通計画記載内容	実施した内容
目標1 鉄道とバスによる利便性が高い公共交通網の形成			
1 駅及び駅前広場の整備・バリアフリー化	JR高蔵寺駅周辺の再整備	高蔵寺リ・ニュータウン計画に基づき、駅北口周辺の再編整備、駅南口周辺や地下道空間の改善による交通結節機能の強化や駅南北の一体感の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・南口駅前広場及び地下道の一部の改修（R3～R4） ・高蔵寺駅周辺の再整備について、アンケートによる意識調査を実施（R4） ・高蔵寺駅北口駅前広場再整備方針を策定（R5） ・再整備方針に基づく基本設計（R6） ・高蔵寺駅周辺において交流・滞留空間の利活用を検討（R3～R6）
	名鉄春日井駅のバリアフリー化	都市交流拠点としてさらなる利便性の向上を図るため、土地区画整理事業と整合性を検討の上、バリアフリー化を促進	<ul style="list-style-type: none"> ・駅施設（相対式ホーム）整備の基本協定の締結、施工開始 ・エレベーターを含む自由通路の基本協定の締結
	名鉄春日井駅の駅前広場等整備	土地区画整理事業に合わせ、安全な歩行空間や駐輪場を整備するとともに、バスやタクシーに円滑かつ安全に乗り換えができるように駅前広場を整備する。また、視覚障害者誘導用ブロックや屋根の設置を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関協議（名鉄、バス、タクシー）実施済 ・詳細設計（駅前広場、トイレ・シェルター）実施済 駅前広場整備（組合整備） 駐輪場、上屋、トイレ（市整備）
2 路線バスサービスの維持・支援	路線バスサービスの維持・支援	JR中央本線を利用する名古屋方面への通勤・通学や、市民病院への通院、商業施設への買い物など様々な移動を支える利便性の高い交通手段として、現在のサービス水準の維持・改善を図る。維持・改善に向けて、立地適正化計画に基づき、住居の誘導や都市機能誘導区域への誘導施設の立地を図る。また、鉄道のダイヤが変更された際には、乗り継ぐ移動の利便性を維持するため、路線バスのダイヤの見直しを検討する。地域公共交通会議の意見を聞きながら、必要に応じて支援していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・県バス対策協議会で検討後桃山線廃止 ・J R東海バス廃止代替路線運行費補助（玉野台：2016年から継続中、桃山線：開始） ・その他路線の維持 ・シルバーバス65、ゴールドバス70購入費用補助（R3,10月～12月）
3 バス待ち環境の改善	バス待ち環境の改善	利便性や快適性を高めるため、利用状況を踏まえながら、事業者や管理者などと連携し、ベンチや屋根、運行情報案内の設置などによるバス待ち環境の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：バス停の安全性確保（北気噴、総合福祉センター前）※ ・市：シティバスバス停の安全性確保（8か所）※
目標2 多様な交通の組み合わせによる市民の移動手段の確保			
1 かすがいシティバスの再編	かすがいシティバスの再編	高齢者の移動手段を確保する公共交通として、ダイヤの再編をする。市役所や市民病院、駅、地域の主な商業施設など、利用の多いバス停への利便性を維持しながら、人口密度が多い住宅地において、バスでカバーできていないエリアを解消する。路線バス、路線間の重複区間の経路を変更する。利用者の少ない北部線では、効率的で持続可能なネットワークや交通手段への改善を図る。運転士の労働環境を改善するため、東環状線の改善を図る。ほか交通機関との乗り換えに配慮するダイヤを検討する。名鉄春日井駅への乗り入れについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・R3,10月から再編路線の運行開始 ・名鉄バスへの乗り入れ要望を行うとともに、区画整理の進捗に合わせシティバス西環状線の乗り入れを検討
2 地域の実情を踏まえた移動手段の導入	地域の実情を踏まえた移動手段の導入	既存の移動サービスが適さない地域や公共交通が不足している地域において、地域住民との検討会や実証実験を踏まえて、地域住民や事業者と連携し、地域の需要に応じた持続可能な公共交通の導入を図る。導入にあたり、他公共交通との連携に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ・R3,7月から北部オンデマンドバスの運行開始 ・随時、乗降ポイントををを設置
3 タクシーや民間自主運行事業、福祉施策との連携	タクシーや民間自主運行事業との連携	多様な需要に対応するため、地域公共交通会議の意見を聞きながら、福祉部局等と連携し、既存の民間自主運行事業などの活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・市、高蔵寺ニュータウンセンター開発、名鉄バス：高蔵寺NT内路線バス乗り放題1日乗車券実証実験の実施（R4,3月）
	住民主体サービス買物支援事業	地域福祉コーディネーター（春日井市社会福祉協議会）と協働して導入を図る	補助上限額：運営費として年額10万円 令和6年度補助団体数：0件
	訪問型サービスD等事業	地域福祉コーディネーター（春日井市社会福祉協議会）と協働して導入を図る	補助上限額：運営費 年額15万円 支援員補助 送迎支援単独型 付き添い支援1回当たり250円かつ1回 の外出あたり1,000円 訪問支援総合型 1回当たり1,000円 令和6年度補助団体数：1件
4 先進技術の活用による移動手段の確保	ラストマイル自動運転の導入 AIオンデマンド乗合サービスの導入	高齢者などがバス停へ移動する際に身体的負担が大きい状況にある地域への導入を図る 高齢者などがバス停へ移動する際に身体的負担が大きい状況にある地域への導入を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験の実施後、本格運行 ・実証実験の実施（R3,6～R4,3、R5,10～R6,9）
5 隣接市との連携	隣接市との連携	利便性向上や利用促進について、隣接市と連携して取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・こまき巡回バスとの連携（上田楽バス停設置）
目標3 みんなで支える公共交通の体制づくり			
1 料金割引制度の拡充・周知	料金割引制度の拡充	高齢化の進行を見据え、運転免許返納者をはじめとした高齢者などの外出を支援する制度について、交通事業者と連携し、適用可能な移動手段の拡充などについて検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：高齢者フリーバス（ゴールド・シルバーバス）の販売 ・タクシー事業者：現行の割引を継続 ・市：定期券の販売開始・乗継券導入
	料金割引制度の周知	利用促進を図るため、交通事業者や市のHP、広報など多様なツールを活用し、乗継割引などのサービスについて広く情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：高齢者向け無料出前講座で高齢者フリーバスを周知 ・市：シティバスMAPに割引内容を記載
2 交通事業者の運営支援（運転手の確保）	運転手の確保	若年層や女性を対象とし、地元出身者や女性運転士の活動状況をPRするなど、交通事業者と連携して周知を図る。また、運転手補助ボランティアについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：採用活動を継続して実施（どらなび参加、MyReferでの募集） ・タクシー組合：養成乗務員採用の継続（免許取得補助）
	運転手の確保のための支援	支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・R7に国庫補助を活用した支援を実施予定
3 バスやタクシーの利用意識を醸成させるイベントの実施	バスやタクシーの利用意識を醸成させるイベントの実施	小中学生や高齢者を対象に、バスやタクシーの乗り方の周知などを図り、日頃から公共交通を利用する意識や心のバリアフリーの醸成を図るためのイベントを実施する。その際に、車両展示や事業紹介など、公共交通を身近に感じてもらう取組みも併せて実施する。また、公共交通の積極的な利用を推進するために、ノーカーデーの実施やモビリティ・マネジメントなどの啓発事業を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：高齢者向け無料出前講座開催 ・タクシー組合：買物ツアーの実施、薬局へのお薬受取代行サービスの実施（有料） ・市：無料デーの実施（R6,10）
4 多様なツールによる運行情報の周知・改善	多様なツールによる運行情報の周知・改善	誰もが公共交通の運行情報を簡単に入手できるよう、多様なツールを活用して情報発信をする。また、シティバスの運行情報を標準的な静的バス情報フォーマットにより整備する。また、地域のイベントや健康増進などと組み合わせるなど、多くの人に活用してもらえるような情報の提供方法について検討する。情報提供の内容は、市民や利用者などの要望を踏まえて持続的に改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：HP、スマホアプリ、バスロケ等で情報を発信 ・市：バスマップ更新、定期券商業連携
5 交通手段間のシームレスな乗継ぎの支援	交通手段間のシームレスな乗継ぎの支援	生活利便性の向上を図るため、交通事業者と連携・調整を図り、異なる交通手段や同路線間の乗継ぎに対して、料金割引などの制度拡充やダイヤの改善を図る。また、MaaSの構築に向け、複数の公共交通手段を包括した経路検索・予約・運賃決済など、情報通信技術を活用した新たな仕組みの導入を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：スマホアプリのリニューアル、GTFSの整備 ・市：GTFSの整備（シティバス） ・名鉄バス・市：高蔵寺NT内路線バス乗り放題1日乗車券実証実験の実施
6 地域で公共交通を支える制度・体制づくり	地域で公共交通を支える制度・体制づくり	公共交通づくりに対して、市民の積極的な参画を促進するとともに、地域の実情を踏まえた移動手段の導入を図るため、地域住民を主体として、地域の公共交通の課題や今後のあり方についての検討会を創出する。また、多様な主体の参画を促進するため、バス停周辺の民間事業者と連携して、バス停周辺の環境改善などに取り組む体制づくりや、商業店舗などの施設内での待合いスペースの確保や運行情報の提供を図る。さらに、バス停やベンチなどをネーミングライツ化してサポートを得ることを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄バス：高齢者向け無料出前講座での利用促進活動 ・市民・市：北部オンデマンドバス地域懇談会の開催 ・市民・市：石尾台おでかけサービス協議会の開催 ・市：連携協定締結企業に対するネーミングライツの実施要望

※バス停の安全性確保：愛知県バス停留所安全性確保合同検討会（事務局国土交通省中部運輸局愛知運輸支局）が公表した「安全性確保の検討が必要なバス停留所リスト」のバス停留所安全対策